



『週刊じゃらん』による「新しい帰省スタイルに関する調査」

- 18～29歳の約70%が旅行先で“帰省している感覚”を感じたい
- 癒やしと安心を得られる“第二の地元”を求めるニーズに注目

株式会社リクルート（本社：東京都千代田区 代表取締役社長：北村 吉弘）の旅やおでかけに関する情報を提供する公式アプリ『週刊じゃらん』（編集長：石橋 亜弥）は、5,784人を対象に「地元」と「帰省」に関する「新しい帰省スタイルに関する調査」を実施しましたので、結果をご報告いたします。

■調査結果概要

今回の調査結果より、コロナ禍で、帰省先を持つ全世代で帰省頻度が大きく下がる中、女性の方が帰省していない率が高いことが分かりました。一方、帰省できる地元のない人は、約43%の人が帰省できる地元を欲しており、その傾向は若年層が高めであることも判明しています。

また、18～29歳の男女とも約70%の人が、今後旅行先で“帰省しているかのような感覚”を感じてみたいと思っており、生まれ育った地元以外でも、帰省感覚を味わいたいと考え、第二の地元となる場所を求めていることや、地元に戻ったときのように安心して過ごせる場所、癒やされる場所を持ちたいというニーズが高いことなどが本調査で分かりました。

■調査結果トピックス

・64.6%が「帰省できる地元がある」と回答。新型コロナウイルス感染症影響の前後で「全く帰省していない」が約3倍に増加（P3、4）

帰省できる地元があっても、コロナ禍において地元へ帰省できない層が増加。

・帰省できる地元がない人のうち「帰省できる地元が欲しいと思う」は42.5%（P5）

性年代別では、女性が帰省できる地元を求める割合が高く、18～29歳女性が56.1%と最も高い傾向。

・男女ともに18～29歳の約70%が「旅行先で“帰省しているかのような感覚”を感じてみたい」（P6）

旅行先で“帰省しているかのような感覚”を「感じてみたい」58.9%とその意向は高く、男女ともに18～29歳が最も高い傾向。

・生まれ育った場所以外でも「帰省感覚を感じられる場所が欲しい」は全体の56.0%、「癒やされる場所や時間」「安心できる場所」が2大理由（P7、8）

故郷ではなくても「帰省感覚を感じられる場所」を半数以上が求めている結果に。「癒やし」や「安心」がキーワードに。

本件に関する
お問い合わせ先

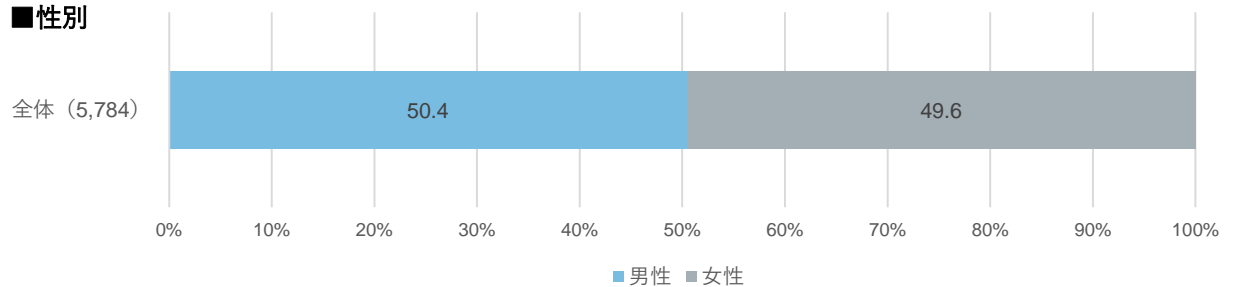
<https://www.recruit.co.jp/support/form/>

【調査概要】

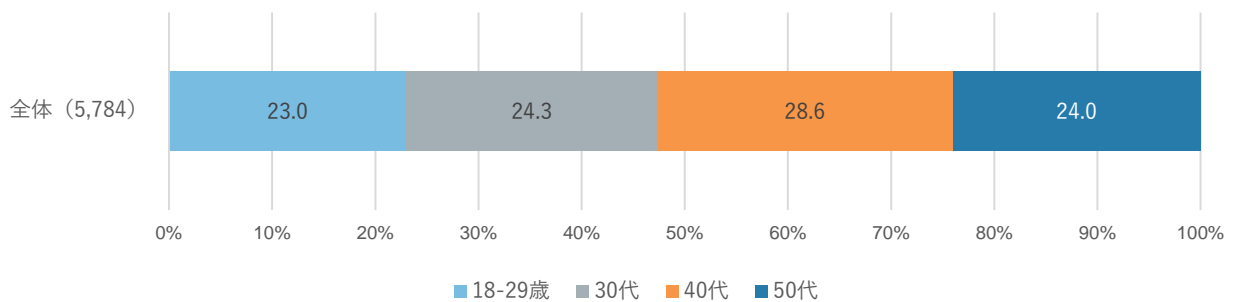
- ◎調査時期：2021年9月24日（金）～ 2021年9月27日（月）
- ◎調査対象：全国18～59歳男女
- ◎調査方法：インターネット上でのアンケートを実施
- ◎回収数（有効回答数）：5,784人
- ◎調査会社：株式会社マクロミル

【回答者プロフィール】（n=5,784）

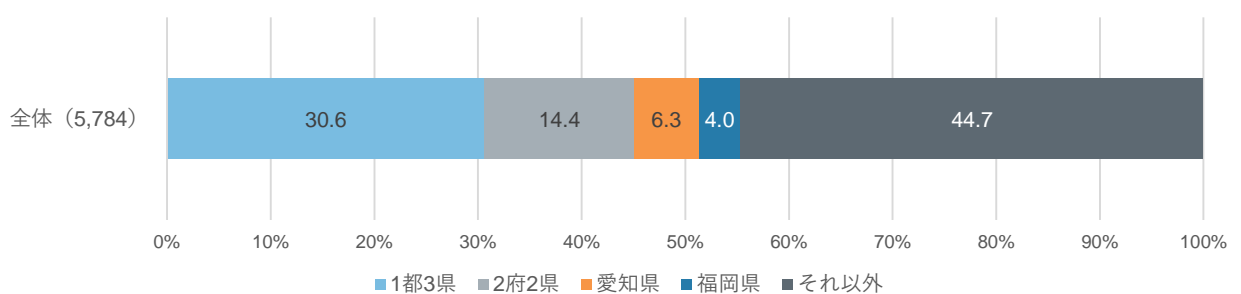
■性別



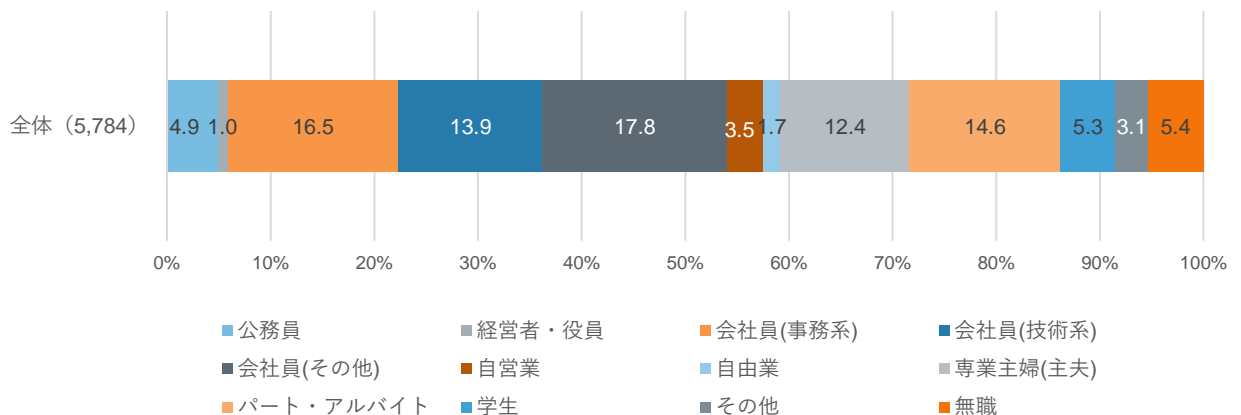
■年代



■居住地



■職業

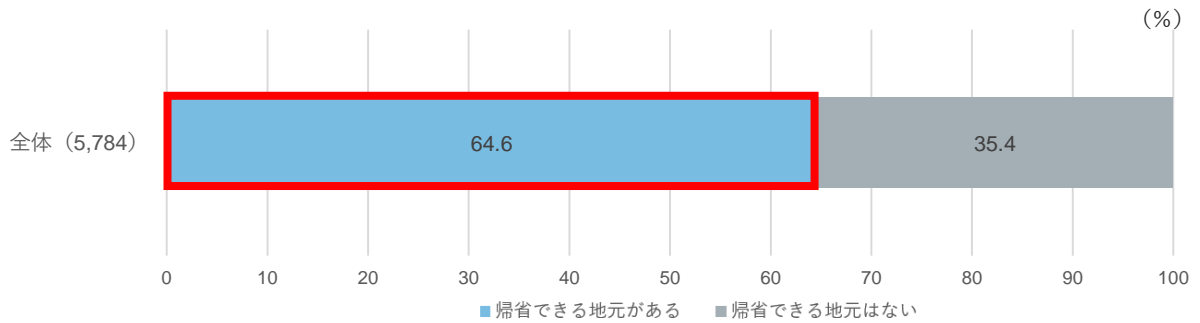


1. 「帰省できる地元」の有無について

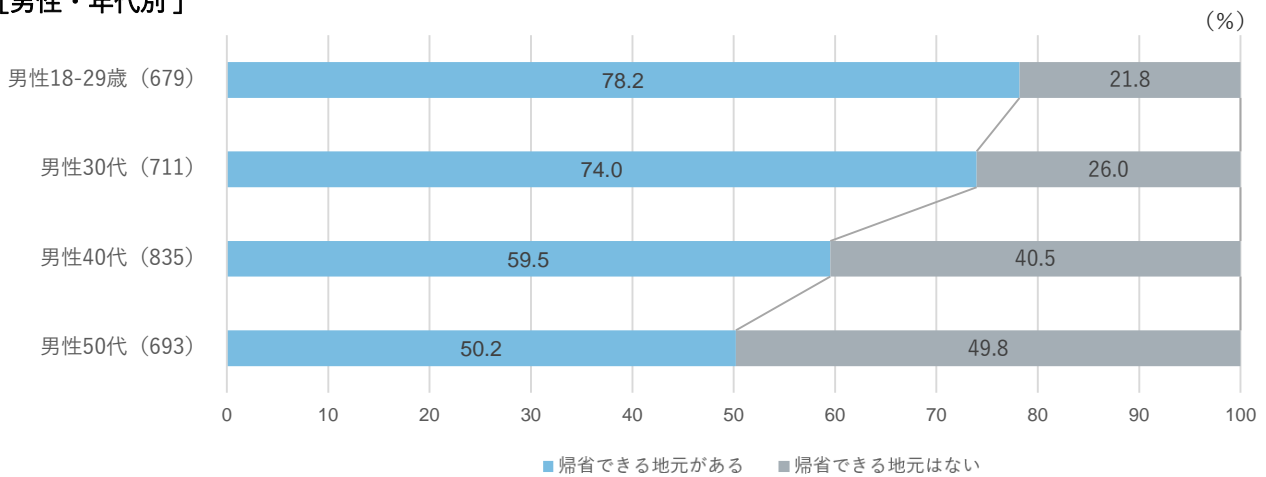
全体の64.6%が「帰省できる地元」があると回答

全体の64.6%が「帰省できる地元」があることが分かった。その中でも、18～29歳の男性が78.2%と最も高く、男女ともに30代以下の層が「帰省できる地元」がある率が高い結果に。また、年代が上がるにつれ減少傾向であることが分かる。

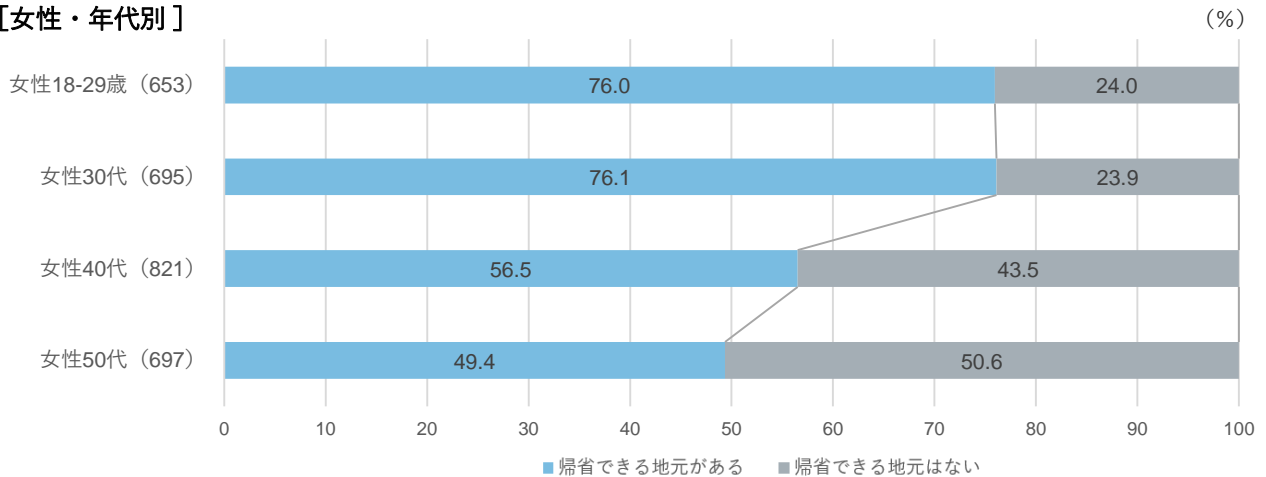
■ あなたには現在、「帰省できる地元」がありますか？（全体／単一回答）



[男性・年代別]



[女性・年代別]



2. 地元への「帰省」頻度について（新型コロナウイルス感染症影響の前後における状況変化）

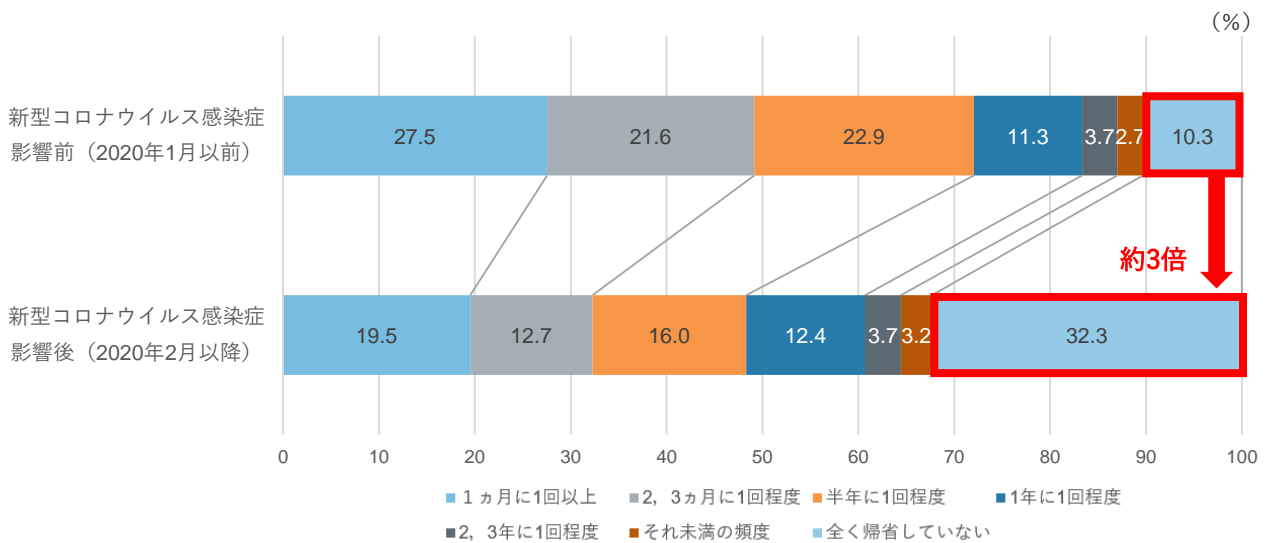
新型コロナウイルス感染症の影響により「全く帰省していない」が約3倍に

「帰省できる地元」があっても、新型コロナウイルス感染症の影響で「全く帰省していない」層が約3倍に。性別で見ると、女性がコロナ禍前後で帰省を控えた率が約4倍に増加していることが分かる。

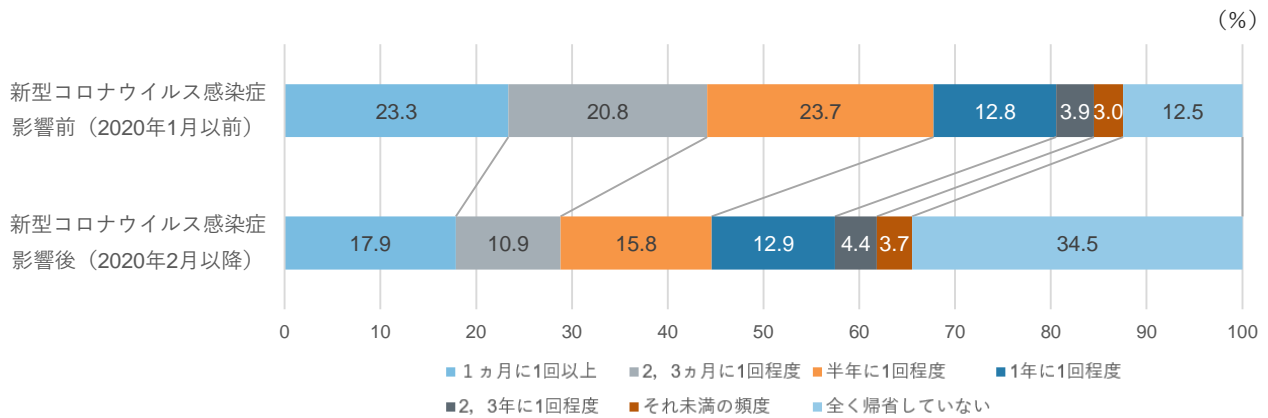
■ 新型コロナウイルス感染症影響の前後で、どれくらいの頻度で地元へ「帰省」していましたか。

（帰省できる地元があるn=3,735／単一回答）

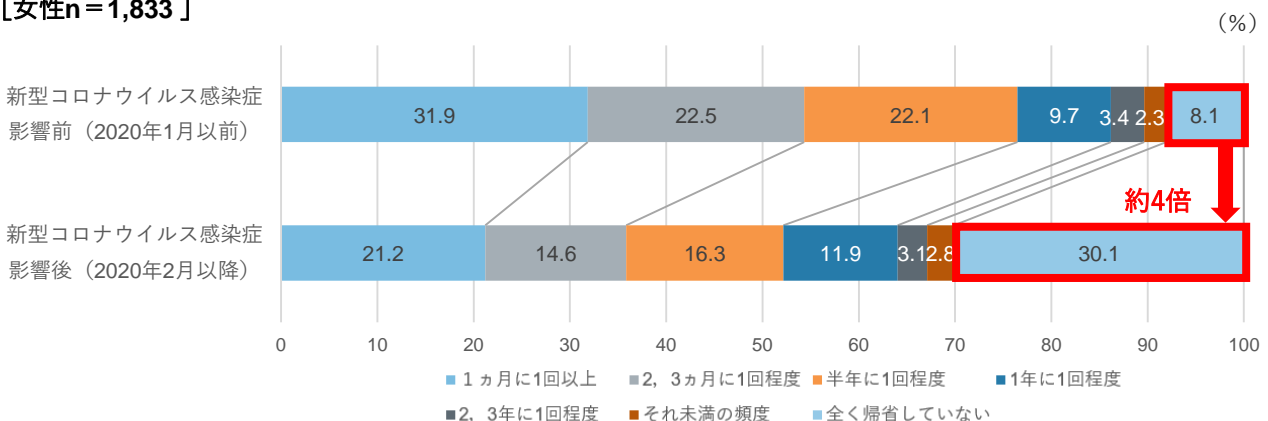
※帰省する場所が複数ある場合は、それぞれを合わせた全体感でお答えください。宿泊を伴わない場合も含まれます。



[男性 n = 1,902]



[女性 n = 1,833]

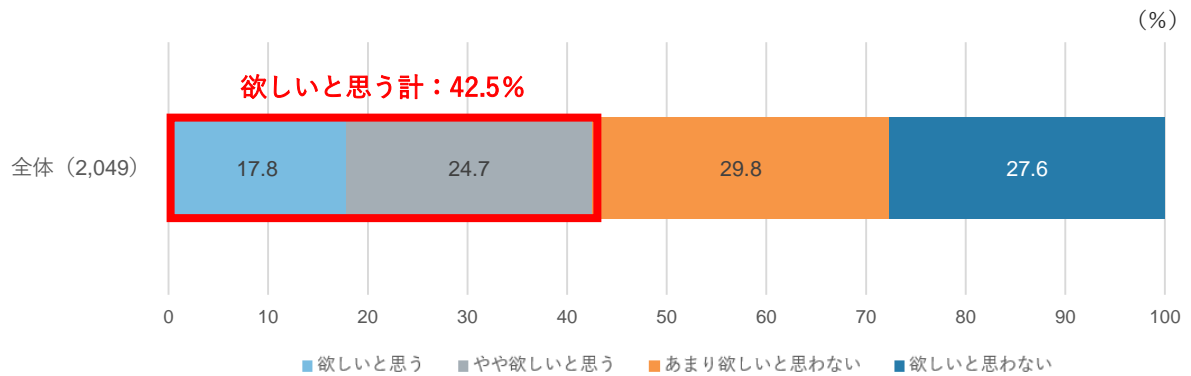


3. “帰省できる地元”を求める意向について

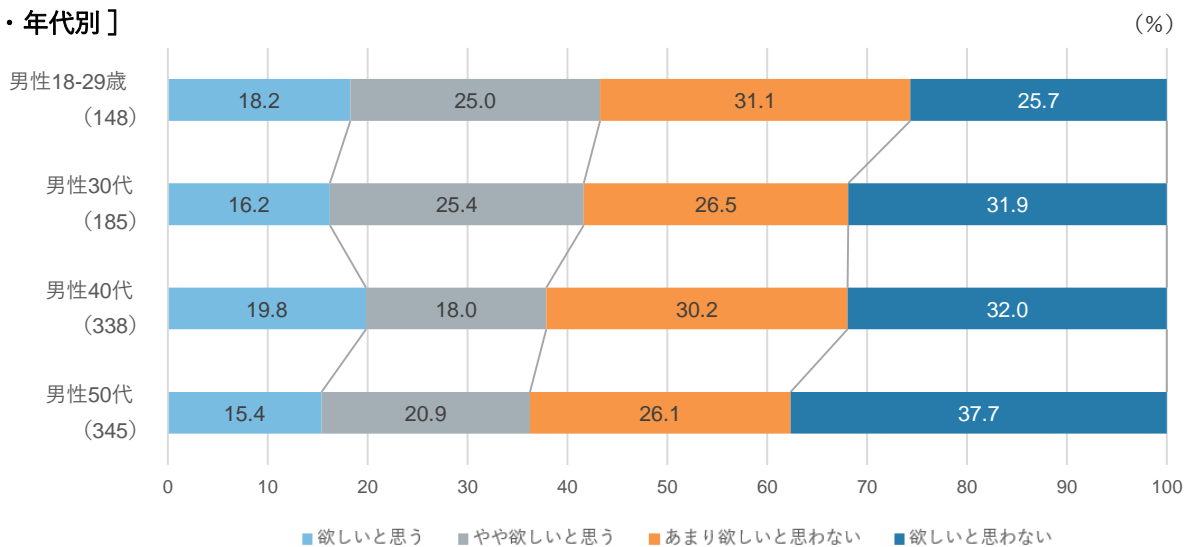
「帰省できる地元」は42.5%が欲しいと回答、その傾向は女性の方が高い結果に

「帰省できる地元」がないと答えた人のうち、「帰省できる地元」を求める人が42.5%いることが分かった。性年代別にみると女性の方がその傾向が強く、18～29歳が56.1%、30代が49.4%、40代が45.1%と全体の値を上回る結果となっている。

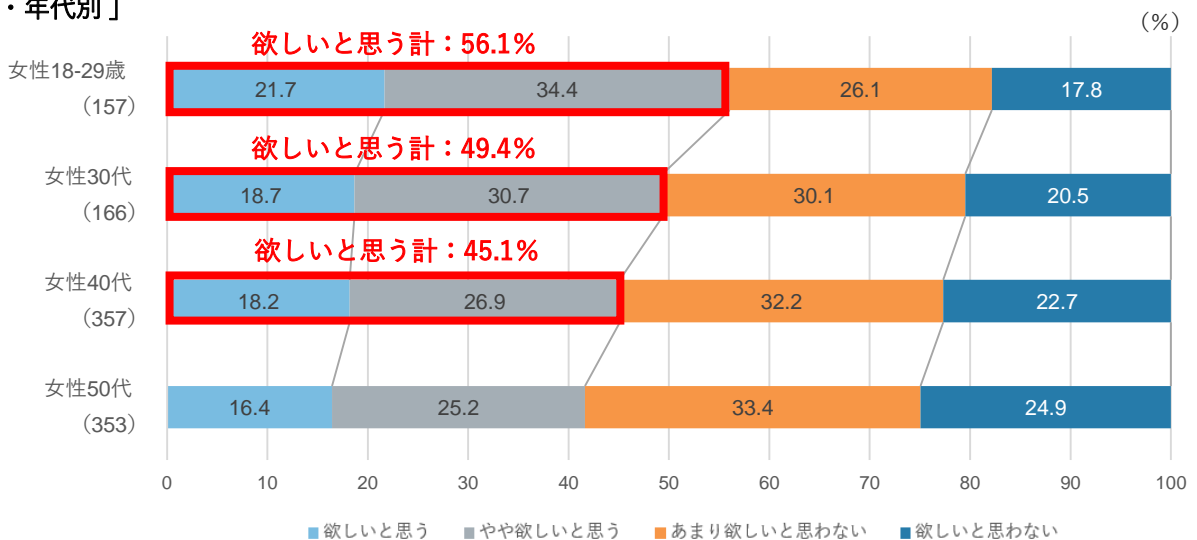
■ あなたは、“帰省できる地元”が欲しいと思いますか？（帰省できる地元がないn=2,049／単一回答）



[男性・年代別]



[女性・年代別]

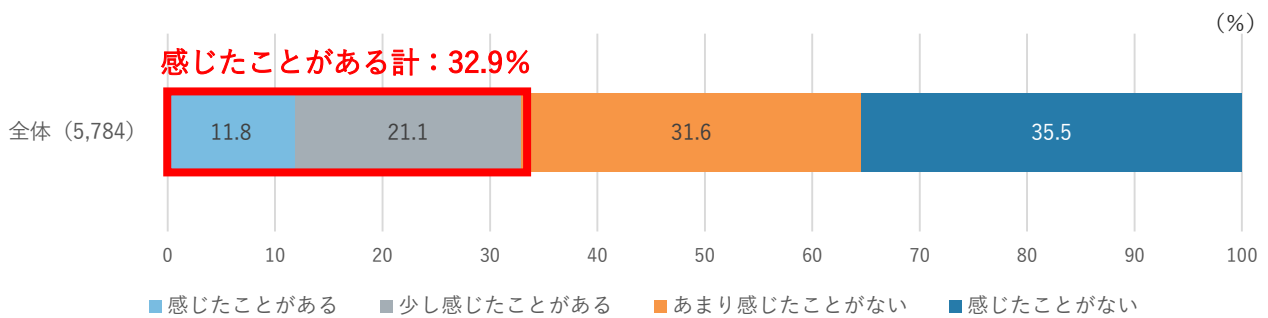


4. 旅行先で感じる“帰省しているかのような感覚”について

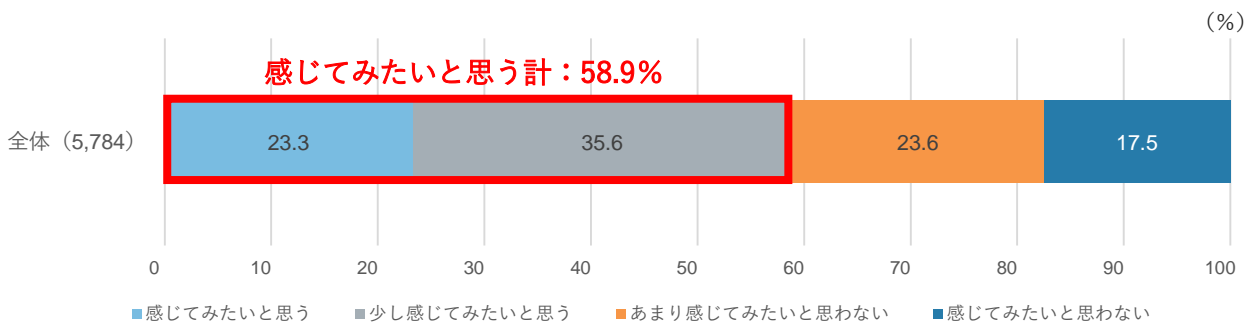
18～29歳男女ともに約70%が「旅行先で“帰省しているかのような感覚”」を求めている

旅行先で“帰省しているかのような感覚”を感じたことがある人は全体の32.9%。今後そのような感覚を感じてみたい人は58.9%となり、その意向の高さがうかがえる。性年代別でみると、18～29歳の層が全体値よりも高い結果となった（男性67.2%、女性69.6%）。

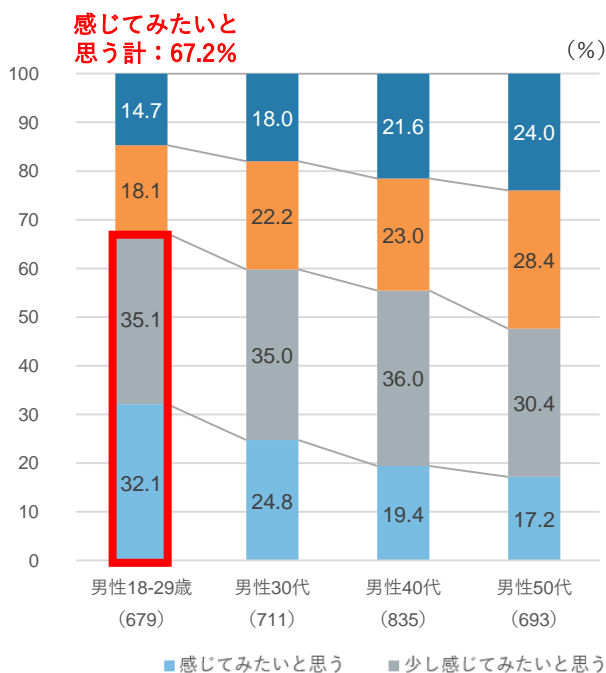
■ 旅行先で“帰省しているかのような感覚”を感じたことがありますか？（全体／単一回答）



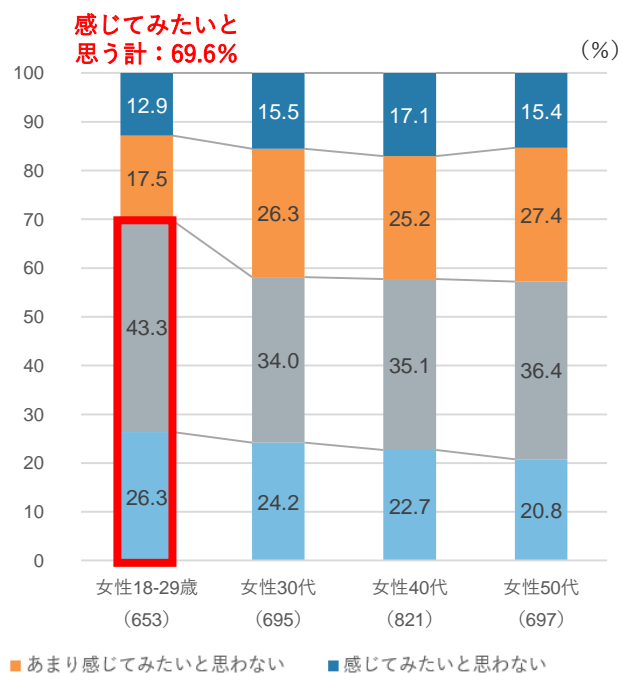
■ 今後(も)旅行先で“帰省しているかのような感覚”を感じてみたいと思いますか？（全体／単一回答）



[男性・年代別]



[女性・年代別]

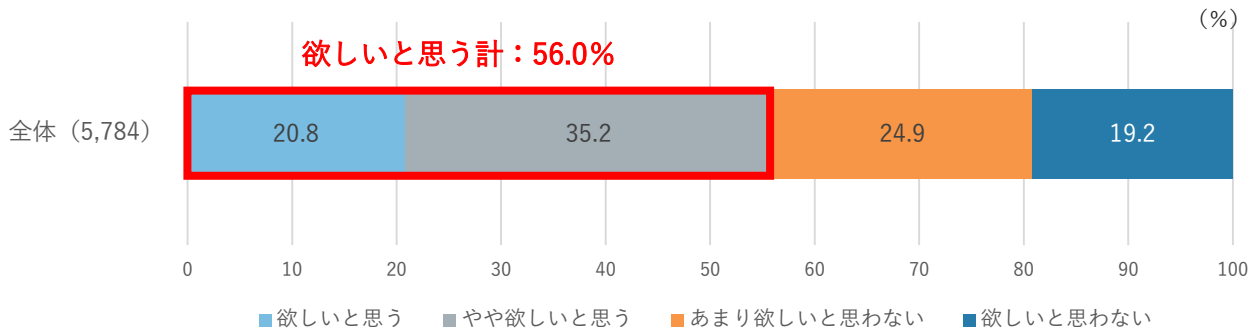


5. 地元ではない場所でも“帰省しているかのような感覚”を求める傾向について

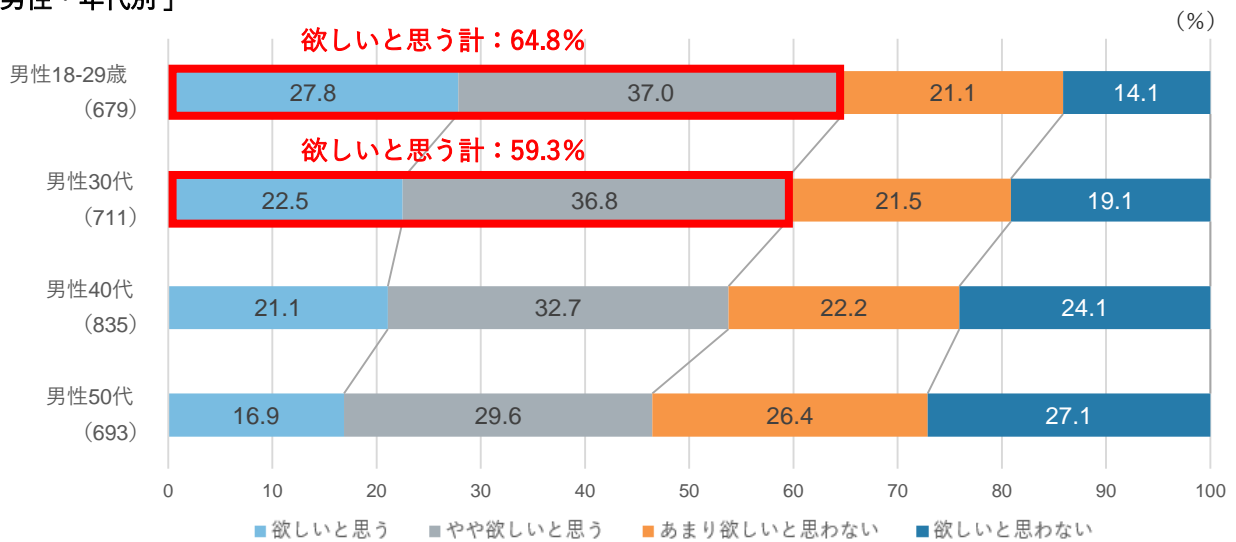
56.0%が地元以外にも“帰省しているかのような感覚”を味わえる場所を求めている

生まれ育った地元ではない場所でも、“帰省しているかのような感覚”を味わいたい人が56.0%。性年代別では、男女ともに30代以下が全体の値を上回り、その意向の高さがうかがえる結果となった。

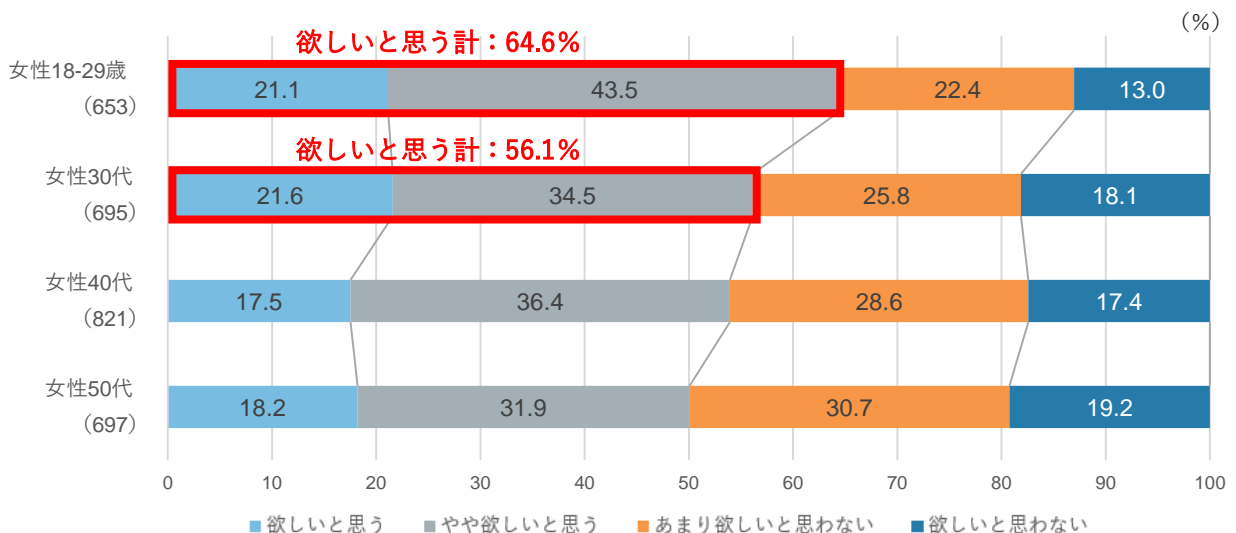
- あなたは、生まれ育った地元ではない場所にも“帰省しているかのような感覚を感じられる場所”が欲しいと思いますか？（全体／単一回答）



[男性・年代別]



[女性・年代別]

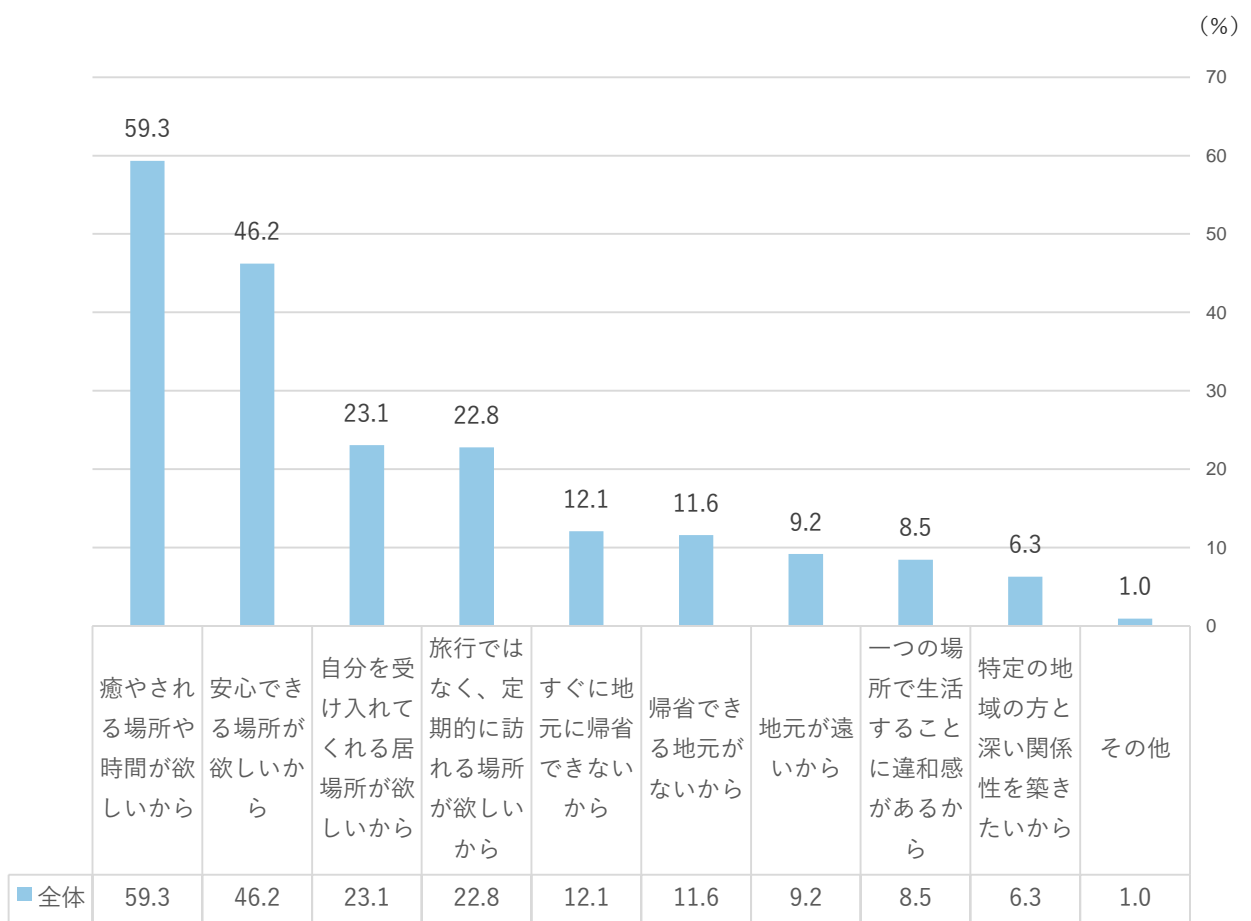


6. 地元ではない場所で“帰省感覚”を求める理由

求める2大理由は「癒やされる場所や時間が欲しいから」「安心できる場所が欲しいから」

地元以外でも“帰省しているかのような感覚を感じられる場所”を求める2大理由は、「癒やされる場所や時間」「安心できる場所」。「癒やし」を求める意向は女性が高く、男性は「定期的に訪れる場所」を求めていることが分かる。

- 「生まれ育った地元ではない場所でも、“帰省しているかのような感覚を感じられる場所”が欲しい」と回答した方にお伺いします。その理由として、当てはまるものをお選びください。（n=3,237／複数回答）



【男性が選ぶ理由ベスト3】

(%)

1	癒やされる場所や時間が欲しいから	53.0
2	安心できる場所が欲しいから	46.3
3	旅行ではなく、定期的に訪れる場所が欲しいから	24.8

【女性が選ぶ理由ベスト3】

(%)

1	癒やされる場所や時間が欲しいから	65.8
2	安心できる場所が欲しいから	46.1
3	自分を受け入れてくれる居場所が欲しいから	23.3

これまで、旅行情報誌『じゃらん』や旅行情報アプリ『週刊じゃらん』では、新しい旅行のかたちをいろいろと発信してきました。新型コロナウイルス感染症の影響により、日常の当たり前が大きく変わった今だからこそ、発信できる旅行の新しいかたちや楽しみがあるのではないかと考え、今回の調査を実施しました。

調査でみえた世の中の動きとニーズを踏まえ、2021年10月に「はじめまして帰省」という特集をサイトに出したところ、SNSなどで若年層を中心に共感のコメントやシェアを多数いただいたり、宿泊施設・観光スポット・飲食店さまからも「帰りたいたいと思ってもらえるような場所を作っていきたい」という反響をいただきました。

『週刊じゃらん』では、いわゆる“観光地”だけではなく、どこか懐かしくホッとできる“帰る場所”としての各エリアの魅力を伝える企画を今後も発信していけるよう、検討中です。ご期待ください。



<参考> 『週刊じゃらん』について

『週刊じゃらん』は、旅行情報誌『じゃらん』の情報が無料で読める、旅行情報アプリです。全国の『じゃらん』シリーズに掲載している旅行・おでかけ・宿泊・イベント情報などを収録し、さらにアプリだけのオリジナルコンテンツもあります。

【公式サイト】 <https://www.jalan.net/jalanweekly/>



『週刊じゃらん』の「はじめまして帰省」企画とは

日々社会の当たり前が変わっていく中で、旅行や帰省のかたちも変わっています。その中で、『週刊じゃらん』は、自分の故郷ではなくても、まるで“帰省”しているかのような心地になれる、帰ることができる場所へ訪れることも、旅行のひとつのかたちではないかと考えています。

その地域に暮らしながら場所を営んでいる東京都台東区蔵前、神奈川県三浦市三崎、岡山県倉敷市児島、宮崎県日南市の4つのエリアの「おかえりコーディネーター」の元へ、4人の「ただいまライター」が訪れ、それぞれの帰省の思い出をエッセイとして特設サイト (<https://www.jalan.net/jalanweekly/kisei/>) で公開。また、『週刊じゃらん』では、おかえりコーディネーターがおすすめするスポット紹介などを配信しています。



リクルートグループについて

1960年の創業以来、リクルートグループは、就職・結婚・進学・住宅・自動車・旅行・飲食・美容などの領域において、一人一人のライフスタイルに応じたより最適な選択肢を提供してきました。現在、HRテクノロジー、メディア&ソリューション、人材派遣の3事業を軸に、4万6,000人以上の従業員とともに、60を超える国・地域で事業を展開しています。2020年度の売上収益は2兆2,693億円、海外売上比率は約45%になります。リクルートグループは、新しい価値の創造を通じ、社会からの期待に応え、一人一人が輝く豊かな世界の実現に向けて、より多くの『まだ、ここにはない、出会い。』を提供していきます。

詳しくはこちらをご覧ください。

リクルートグループ：<https://recruit-holdings.com/ja/> リクルート：<https://www.recruit.co.jp/>